

G-EVER 活動におけるアジア太平洋地域の活断層カタログの作成 Construction of the active fault catalog of the Asia-Pacific Region in G-EVER project

吾妻 崇^{1*}

Takashi Azuma^{1*}

¹ 産総研 活断層・地震研究センター

¹ Active Fault and Earthquake Research Center, AIST

国際的な活断層のカタログを構築するにあたっては、まず対象とする活断層の定義を明確にすることが重要である。G-EVER では、活断層の定義を検討し、既往の論文等で報告されているアジア・太平洋地域に分布する活断層を、定義に照らし合わせてカタログ化していく作業グループを立ち上げることを計画している。

G-EVER では各国の地震危険度に関する情報を共通の手法で評価し、市民や企業が海外安全情報の一つとして活用できるような情報を提供することを目標としている。世界各国の地震危険度を共通の手法で評価し、比較するためには、地震の震源となる断層を共通の基準において選定することが必要である。現在、日本や米国、ニュージーランドなどで地震の震源となりうる活断層のデータベースが公開されているが、それぞれにおいて活断層の定義、特に過去の活動時期に基づく認定基準は統一されていない。例えば、USGU が公開している「第四紀断層・褶曲データベース」では、第四紀のすべての時期における活動の証拠を有する断層情報を網羅しており、利用者が対象とする活動時期を選んで活断層を検索することが可能である。その時代区分は、第四紀以降、第四紀中期以降、第四紀後期以降、完新世以降、有史時代以降となっている。ニュージーランドの GNS が公開している活断層データベースでは、第四紀後期以降に活動した断層が掲載されている。産総研が公開している日本の活断層データベースでは、高位段丘のみが変位基準となっている断層も含まれていることから、第四紀中期以降に活動した証拠がある断層が活断層として取り上げられていると解釈される。

G-EVER の作業グループでは、活断層であると判断する活動時期の定義を明確にしたうえで、その条件を満たす断層のみを取り上げたカタログを作成していく。一方で、GEM の研究プロジェクトである「Faulted Earth」で世界の活断層データベースの作製が進行している。G-EVER の作業グループの成果が GEM のプロジェクトに反映されるように、相互に連携を取りながら作業を進めていく予定である。

キーワード: 活断層, カタログ, アジア太平洋地域, G-EVER, GEM

Keywords: active fault, catalog, Asia-Pacific Region, G-EVER project, Global Earthquake Model